

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト
【上今井遊水地について】

国土交通省 千曲川河川事務所

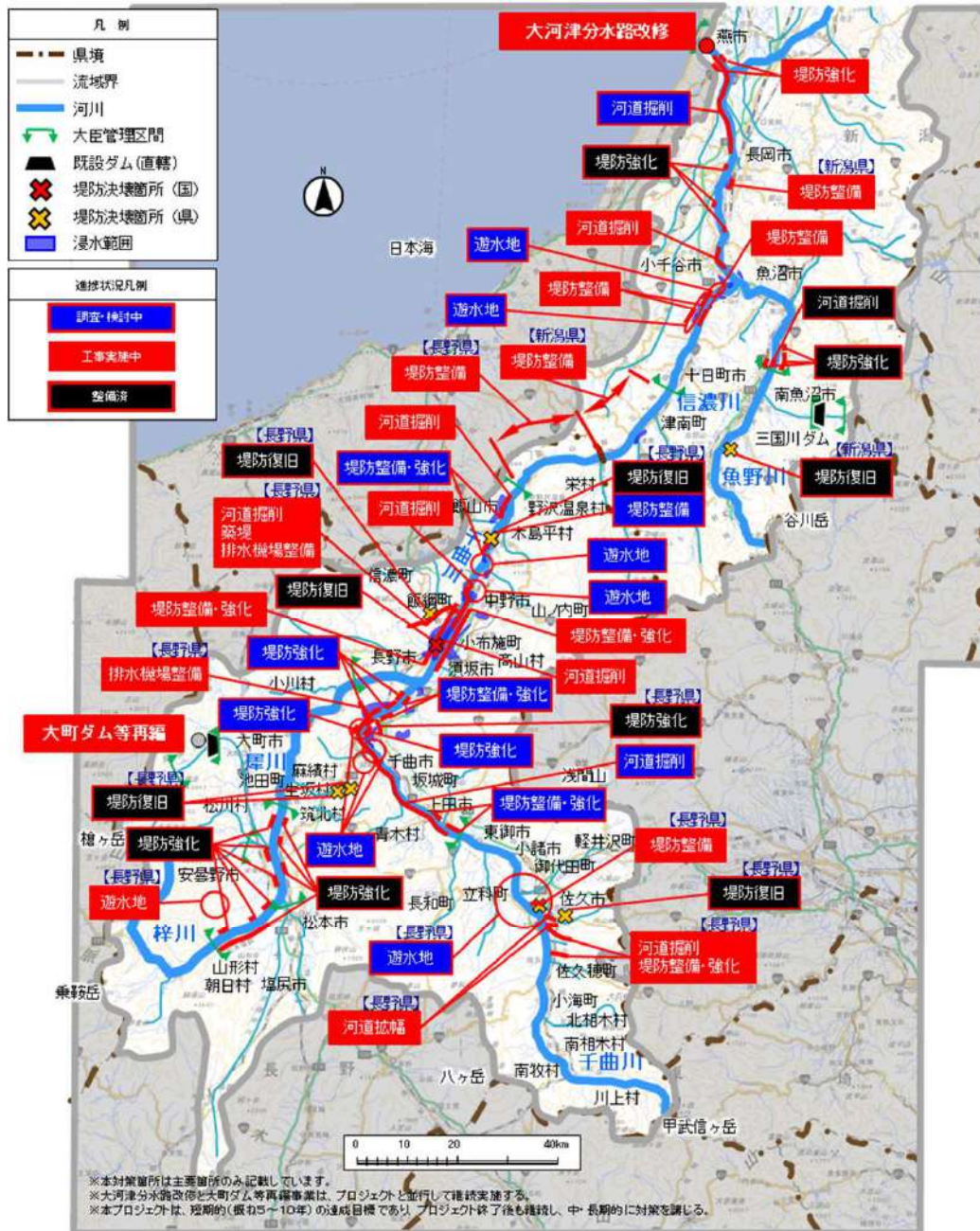
1. プロジェクトの概要

～みんながつなぐしなのの川～
信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

【R3.9末時点】

～「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進～

○国・新潟県・長野県・信濃川流域の41市町村が連携し、令和2年1月に「緊急治水対策プロジェクト」を立ち上げ、『「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進』をスローガンに、水系全体で河川整備、流域対策・まちづくり、ソフト対策を一体的かつ緊急的に進める。



○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間で越水防止を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和3年度は、引き続き上下流バランスを踏まえた、全川での河道掘削等の改良復旧、ため池・田んぼダム等既存施設の有効利用（流域対策）、マイタイムラインの普及（ソフト施策）を実施予定

■河川における対策

全体事業費 約1,866億円【国：約1,227億円、県：約639億円】
 災害復旧 約586億円【国：約214億円、県：約372億円】
 改良復旧 約1,280億円【国：約1,013億円、県：約267億円】
 事業期間 令和元年度～令和9年度
 目標 【令和6年度まで】
 令和元年東日本台風（台風第19号）洪水における
 ・千曲川本川の大规模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止
 ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止
 【令和9年度まで】
 令和元年東日本台風（台風第19号）洪水における
 ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止

対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

■流域における対策

- ため池等既存施設の補強や有効活用
- 田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- 学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- 排水機場等の整備、耐水化の取組
- 防災拠点等

■ソフト施策

- 「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- 高床式住まいの推進
- マイ・タイムラインの普及
- 公共交通機関との洪水情報の共有
- 住民への情報伝達手段の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、
 浸水被害状況



新潟県小千谷市内における
 浸水被害状況

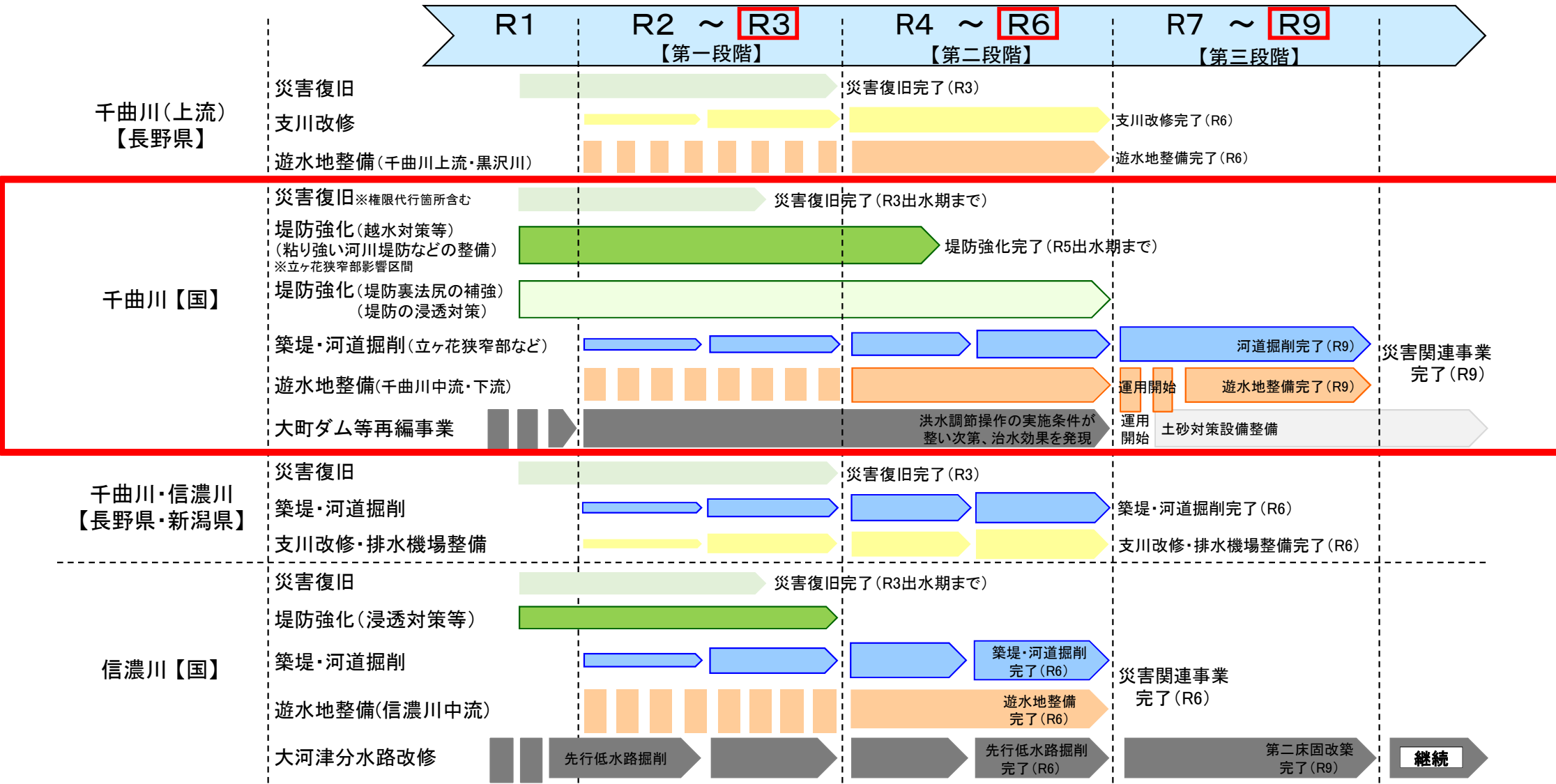
※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

ロードマップ

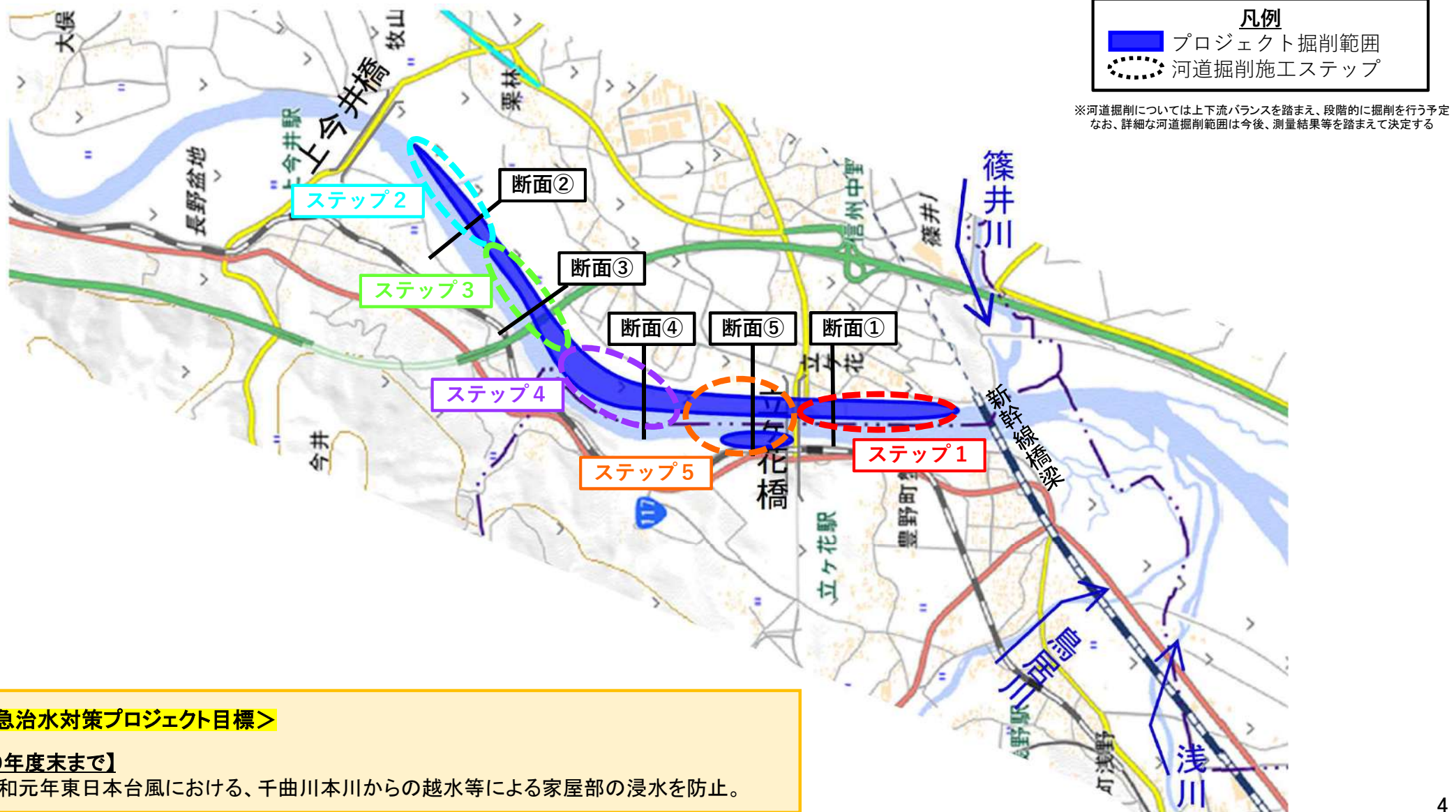
「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

- 【第一段階(復旧)】 災害復旧を令和3年度までに完了(国(権限代行含む)は令和3年出水期まで、県は令和3年度)。並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】 改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】 遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける河道掘削箇所について(立ヶ花狭窄部)

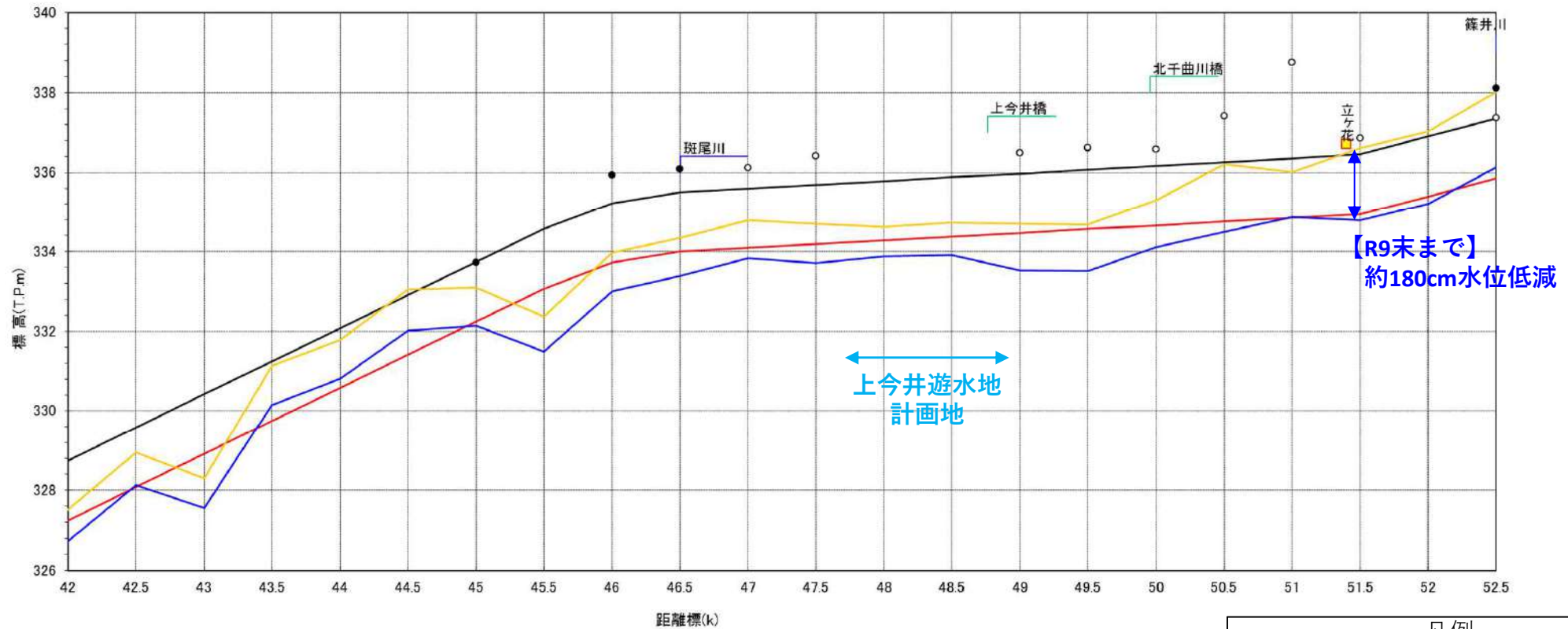
- 信濃川流域全体での上下流バランスや氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、令和2年度から千曲川本川の水位低下を目指し、立ヶ花狭窄部の掘削を段階的に進める。
- 河道掘削を行う範囲を段階的に広げていき、上流に位置する立ヶ花狭窄部のせき上がりを受けている範囲において、令和元年東日本台風規模の洪水を計画堤防高以下で流下させる(R9年度末まで)



河道掘削等の水位低下効果について(立ヶ花狭窄部)

- 令和2年度からの各年の河道掘削により、段階的に水位の低下を図る。
- 令和9年度末までに河道掘削・遊水地の整備と合わせて、約180cm程度千曲川本川の水水位低減させる。

令和元年度東日本台風規模の洪水が
氾濫せずに流下した場合の水位

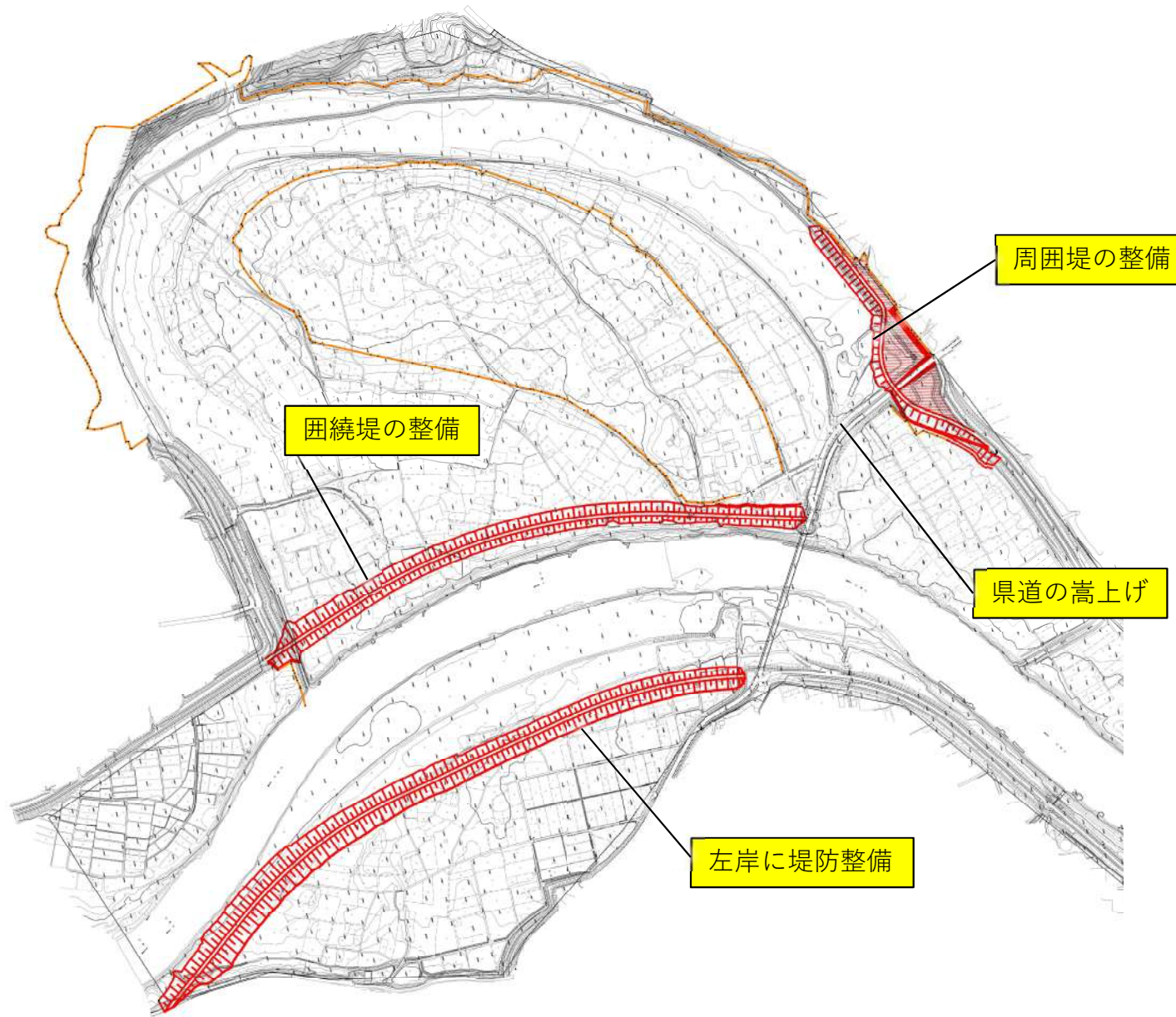


- 凡例
- 計画堤防高
 - 計画高水位
 - 現況堤防高 (左岸)
 - 現況堤防高 (右岸)
 - プロジェクト前の河道での水位
 - R9末までの河道での水位

2. 遊水地 施設説明

上今井遊水地 平面配置

- 千曲川旧河道部の利用し、無堤区間に堤防(囲繞堤及び周囲堤)を設置し、遊水地を形成する。
- 上記堤防に囲まれた部分のうち遊水地内の計画高水位相当より地盤高が高い部分は耕作地としてそのまま残す。(耕作地のうち、一部計画高水位より低い土地も残るが、農道を嵩上げし、計画高水位相当の高さを確保する。)



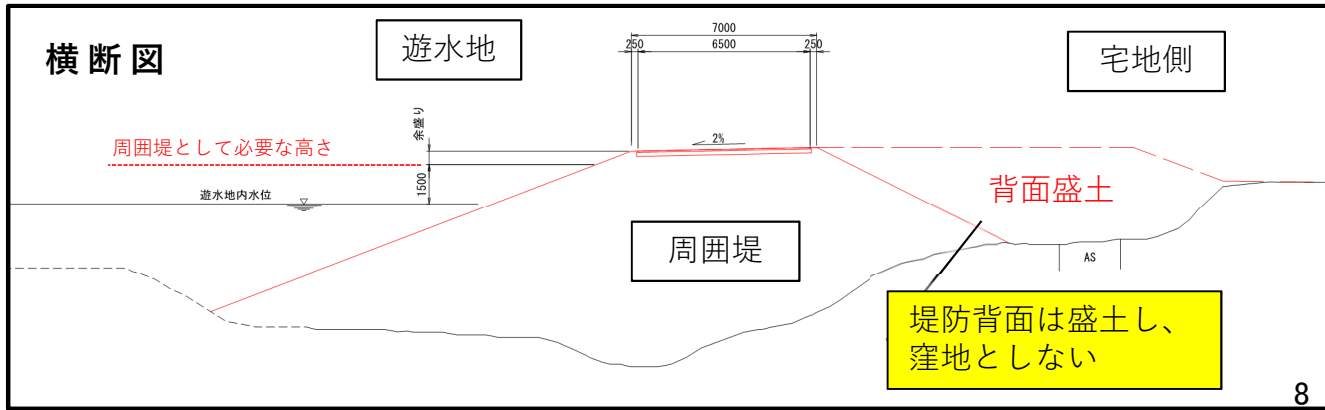
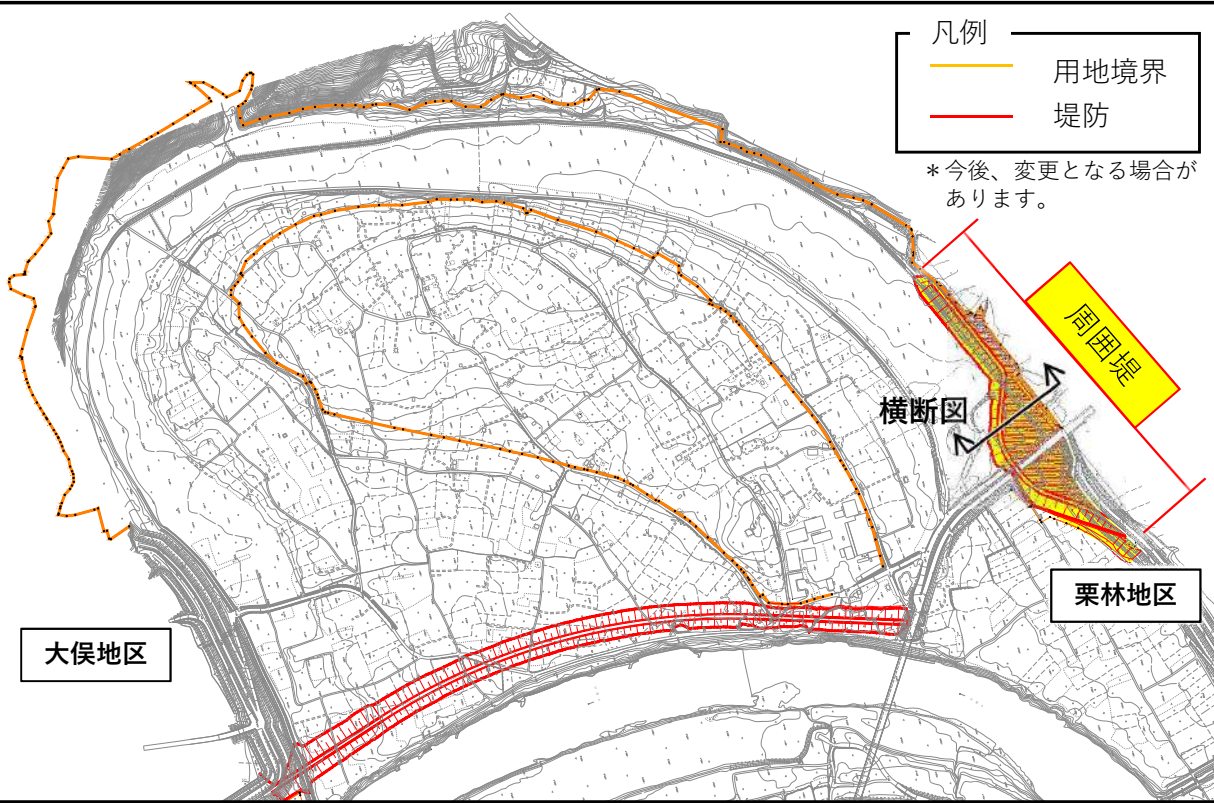
凡例

- 用地境界
- 堤防

* 今後、変更となる場合があります。

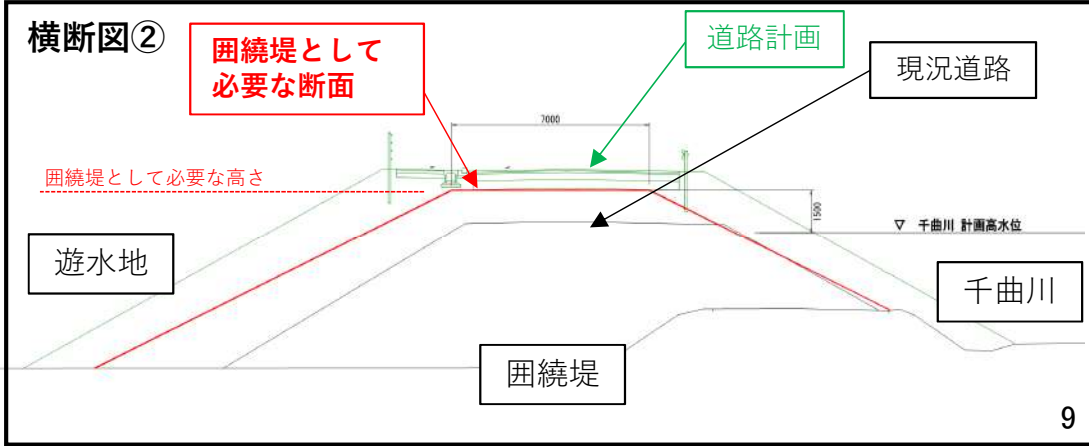
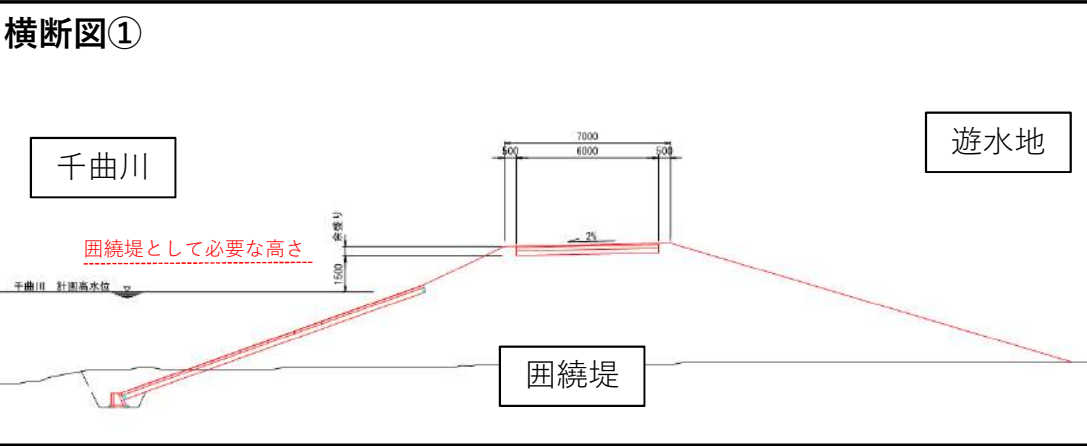
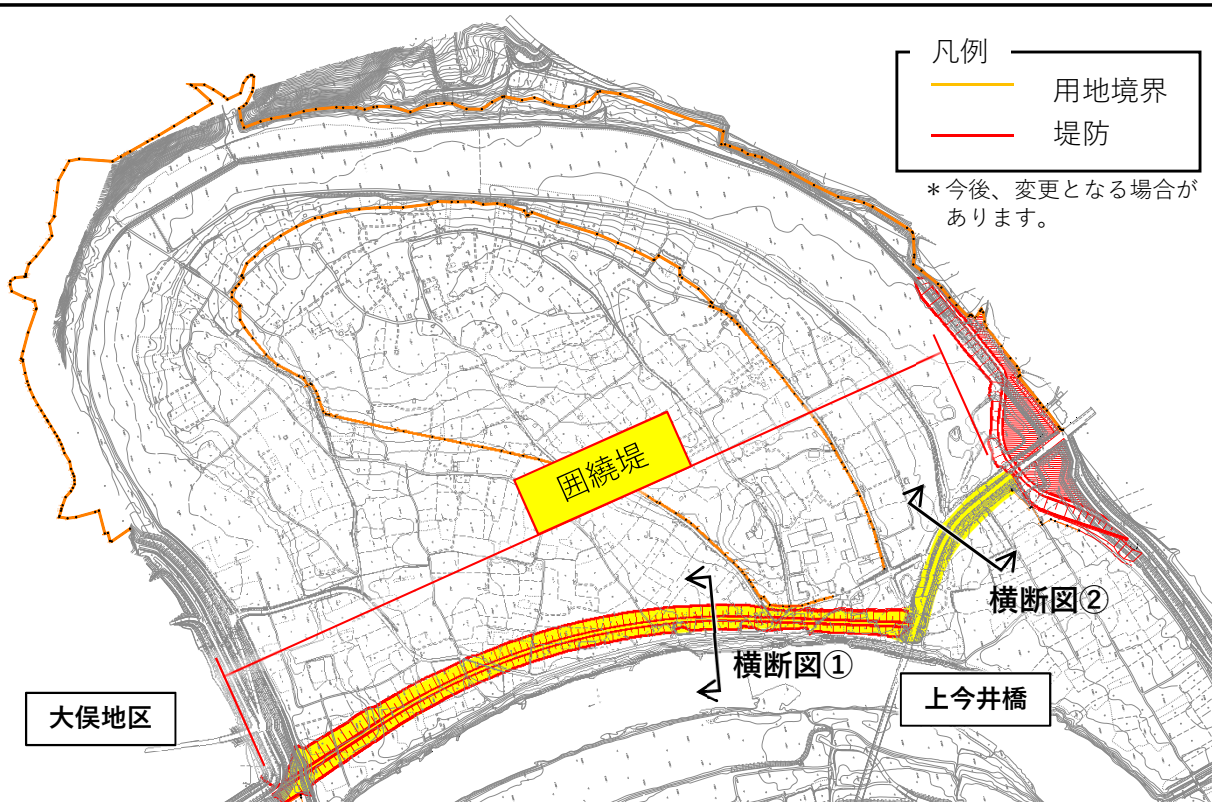
上今井遊水地 周囲堤

- ・ 周囲堤の高さは、遊水地側の水位＋余裕高※とする。（※余裕高は河川堤防と同じ考えで設定）
- ・ 栗林地区側の堤防は、道路への取付を考慮し、堤防を前出しする。
- ・ 大俣地区側は、既存堤防が遊水地の周囲堤として必要な規格を満足するため、既存堤防を活用する。
- ・ その他の部分は現地形を利用するものとし、堤防は不要と想定。



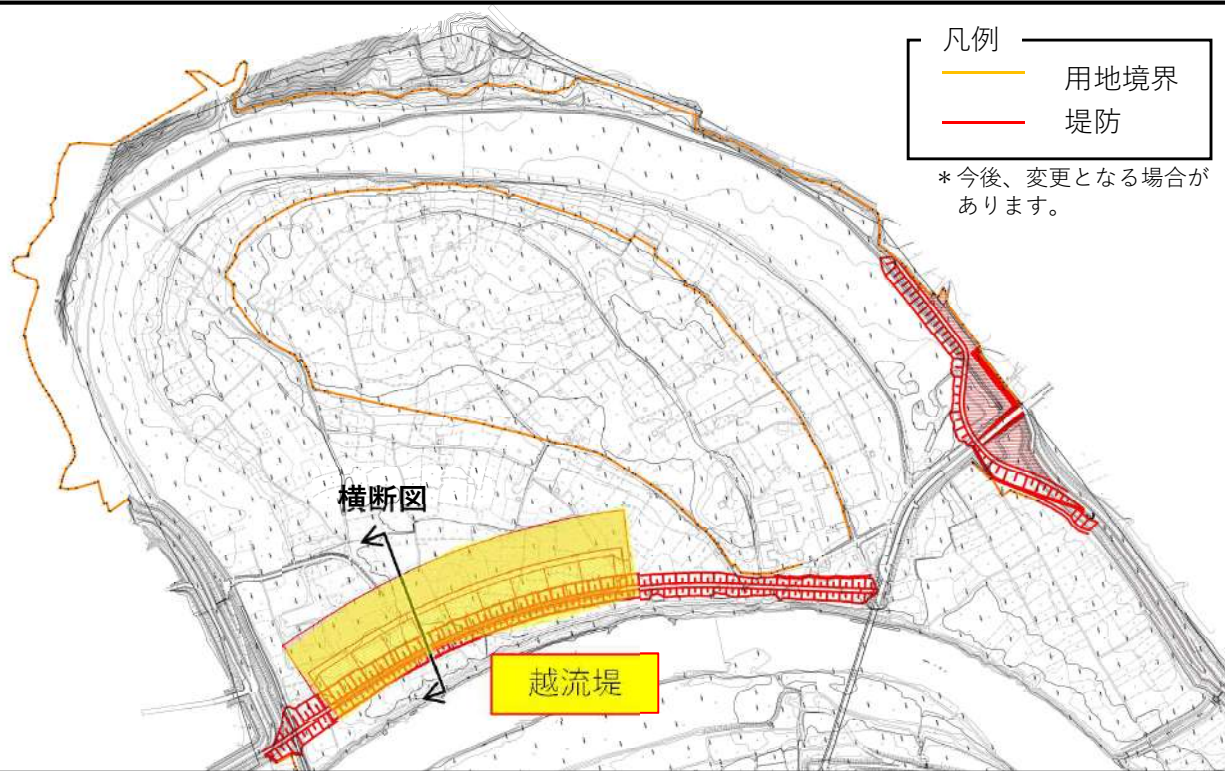
上今井遊水地 囲繞堤

- ・ 囲繞堤の高さは、千曲川側の水位＋余裕高※とする。（※余裕高は河川堤防と同じ考えで設定）
- ・ 無堤区間（上今井橋～大俣地区）に新たに堤防を設置し、囲繞堤とする。
- ・ 県道三水中野線は堤防相当高まで嵩上げし、遊水地の囲繞堤と県道を兼用する。（県事業と連携して実施。）

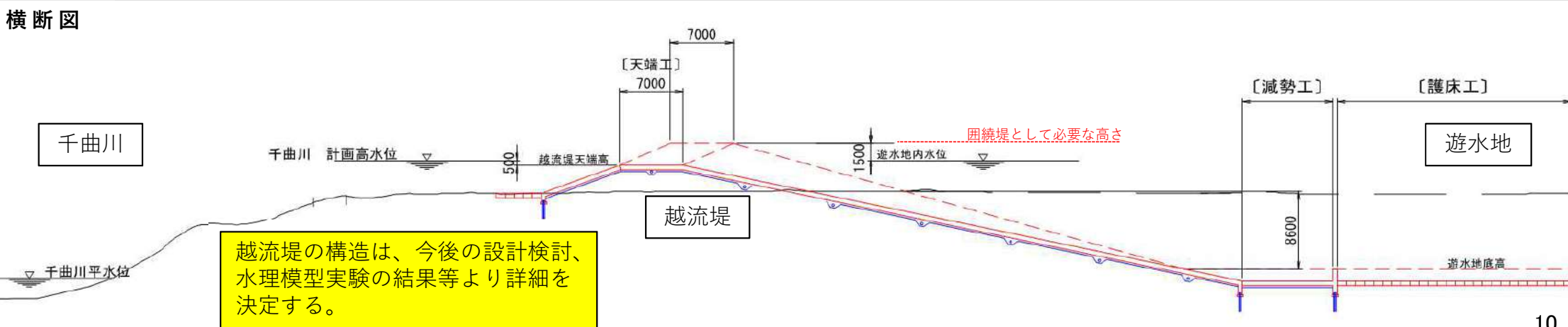


上今井遊水地 越流堤

越流堤を遊水地の下流側へ配置する。
越流堤とあわせて、減勢工※、護床工※を設置する。



※用語解説
減勢工：越流堤を越えて流入する洪水の勢いを減ずる施設
護床工：越流堤を越えて流入する洪水による洗掘を防止する施設



上今井遊水地 左岸堤防

- ・ 遊水地の整備とあわせて左岸側の無堤区間へ堤防を設置する。
- ・ 堤防を設置する範囲については、用地買収が必要となる。
- ・ 左岸堤防背面の埋立については、地元との調整を踏まえ検討を進める。



左岸堤防背面の埋立について

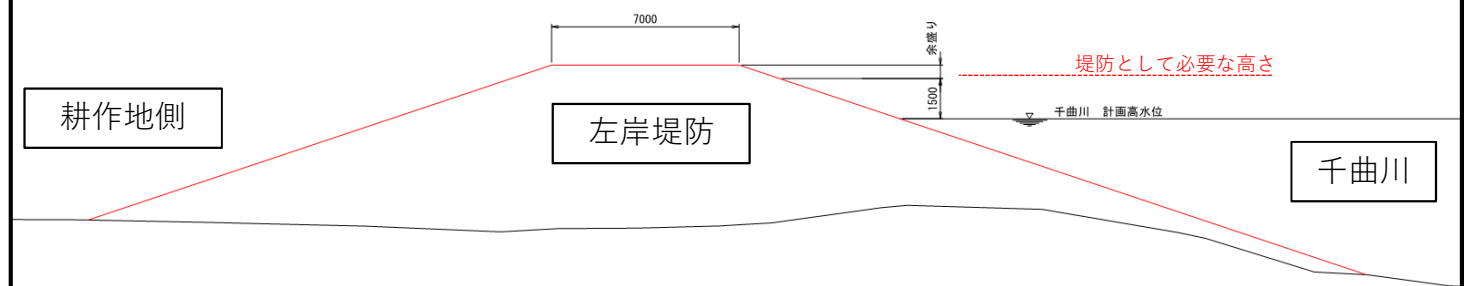
R2年度 地元説明会
遊水地の掘削土砂を利用して左岸堤防の背面を埋立て欲しいと意見有り

R3年6月 上今井左岸埋立委員会 設立
左岸背面の埋立について要望

R3年9月 意向調査の実施
上今井左岸埋立委員会により埋立に関する意向調査を実施

引続き地元と調整を行い
左岸築堤背面の埋立を検討する

横断面



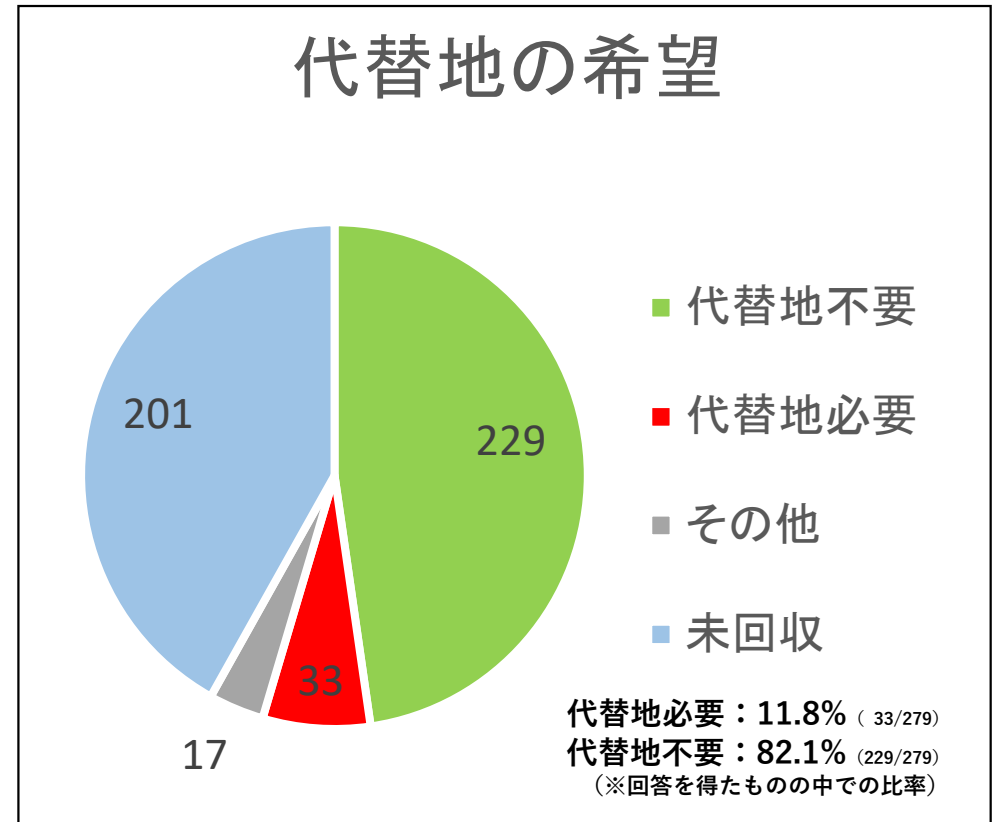
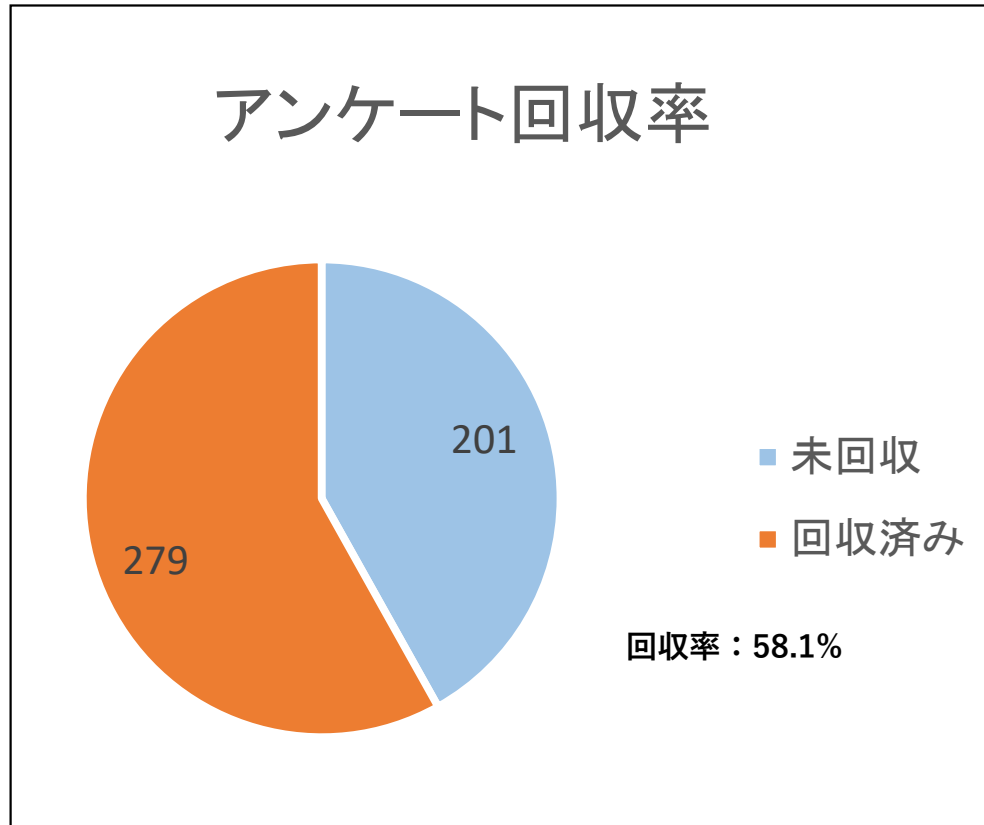
3. アンケート集計結果

上今井遊水地 意向調査結果

- ・上今井遊水地については、以下の項目について意向調査（アンケート）を実施。
- ・アンケートの結果、代替地を必要とする方の比率は11.8%であった。（※アンケートを提出いただいたものでの比率）

<アンケート項目>

- ・用地買収となった場合、農地等の代替地を希望しますか？



※アンケート調査範囲（遊水地計画地全域）の面積約100万m²に対し、耕作地として残る範囲（計画）の面積は約30万m²（約30%程度）である。